

確かな学力の向上をめざし、主体的に学ぶ児童の育成

～思考力・表現力を高める授業づくりを通して～

研究目標

児童が主体的に学び、確かな学力を向上させるための授業改善の在り方について、授業実践を通して明らかにする。

研究仮説

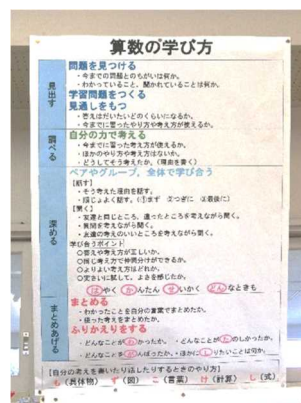
国語科と算数科の学習において、「見出す場」、「調べる場」、「深める場」、「まとめあげる場」の充実を図れば、基礎・基本が身に付き、自分の考えを進んで書いたり話したりすることができるだろう。

◆仮説検証のための具体的な3つの手立て

○授業改善

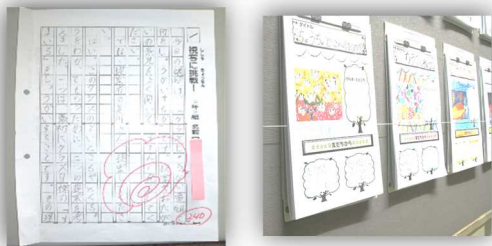
◇東陽小学校 学びのプロセス（授業改善の視点）

場	国語科	算数科
見出す	学習のゴールを明確にし、学習計画を意識させることで興味・関心をもたせる。	やってみたいやわくわくのある素材の選択及び提示の仕方の工夫をし、興味・関心や疑問をもたせる。方法と結果の見直しをもたせる。
調べる	教材文全体から視点をもって読ませるように工夫する。	既習学習を活用して考えさせる。「具体物」「図」「言葉」「計算」「式」を用いて表現させる。
深める	児童が読み取ったことを交流し、多様な読みに触れながら学び合い、自分の読みを深めさせる。	「学び合うポイント」を視点として考えを深めさせる。
まとめあげる	言語活動を通して、身についた力を活用していく。	「わたがし」を視点として、学んだことを記述させる。



○基礎学力向上の定着

- ◇朝の読書
- ◇ドリルタイムの効果的活用
 - ・「ちばっ子チャレンジ100」の活用
 - ・視写チャレンジ（書く力の向上）
- ◇学校行事の感想（書く力の向上）



○学習の習慣化

- ◇家庭学習の習慣化
 - ・家庭学習カードの作成
 - ・各クラスの模範になる自学ノートの掲示
- ◇家庭との連携
 - ・横芝光町「家庭学習の手引き」の活用
 - ・「学習便り」の発行
- ◇いきいき東陽っ子元気アップ作戦
 - ・生活習慣チェックによる保護者との連携
- ◇小中学校一貫の生活・学習規律
 - ・中学校区の9年間で守る生活・学習のルールの設定